

独立行政法人日本学術振興会が実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」において  
国立大学法人信州大学が雇用する特別研究員-PD 等に関する育成方針

国立大学法人信州大学（以下、本学）では、大学の存立理念に基づき、研究に対しては「人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。」という目標を掲げている。また、第4期中期目標においても「優れた研究者の養成」や「独創的な研究の推進」といった計画を設定しており、日本学術振興会特別研究員-PD 等の若手研究者の受け入れ・育成は、本学の研究力強化に向けた取り組みに合致するものである。本学では既に、特別研究員制度に関する説明会や募集案内、URA による申請書の添削等を実施し、特別研究員への応募奨励ならびに採択に向けた各種サポートを実施してきたところであるが、本制度を活用することで特別研究員-PD 等の受け入れ環境の更なる改善が期待できる。そのために、本学では特別研究員-PD 等に対し、以下のような研究環境および能力開発支援を整備・提供する。

① 特別研究員-PD 等の研究環境の確保・充実

本事業によって雇用する特別研究員-PD 等に対しては、本学における所属キャンパス研究室等の施設利用のみならず、学内ネットワーク環境（専用 ID を付与）、適切な講習を受けた上での共通機器の利用（所属キャンパス以外の共通機器も必要に応じて利用可能）、図書館および文献検索サービスの利用、大学包括契約ソフトウェアのライセンス付与等、研究を推進する上で必要な環境を提供する。

また、本学内で閲覧可能な電子ジャーナルについては、アンケート調査や利用状況等に応じて毎年見直しを行い、必要な学術情報が得られるよう定期的にアップデートする。併せて、健康診断の受診、年次有給休暇の付与等を行い、福利厚生面の充実にも努める。

本学は、キャンパスが長野県内 5 箇所に分散しているため、キャンパス間での共通機器利用の利便性を高めるとともに、他キャンパスに所属する研究者との交流を促進するための取り組みを実施してきた。その一例として、実験機器を備えた滞在可能な実験室「オープンラボラトリー」の開設が挙げられる。現在、オープンラボラトリーは松本キャンパスに設置されており、特別研究員-PD 等を含めた学内の研究者が所定の利用料金を負担することで利用できる。ここでは、本学の理系研究者を中心として、大型共通機器や動物実験施設等を活用した中～長期に渡る連続実験等を行う際に利用されており、特に理系分野の特別研究員-PD 等がシームレスに研究を遂行できる環境を提供できる。また、オープンラボラトリーに集う多様な研究者との交流や、特別研究員-PD 等自身による自律的な研究活動を奨励することによって、特別研究員採用期間終了後に研究者として独立する際の研究スタートアップ等のキャリア形成にも貢献できる。

また、オープンラボラトリーに集う多様な研究者との交流や、特別研究員-PD 等自身による自律的な研究活動を奨励することによって、特別研究員採用期間終了後に研究者として独立する際の研究スタートアップ等のキャリア形成にも貢献できる。

② 特別研究員-PD 等の能力開発支援

本学で雇用した特別研究員-PD 等の研究者としてのキャリア形成を支援するため、本学では主に 3 つの能力開発支援を計画している。

一つは、外部資金の獲得に向けた支援である。本学で受け入れた特別研究員-PD等に対しては、本学研究推進部が学内研究者向けに公開している「研究推進ガイド」により、各種競争的研究費の申請情報や事務手続き等に関する情報を学内ネットワーク経由で閲覧可能とする。各種競争的研究費の申請に際しては、本学の研究支援・産学官地域連携を担う信州大学学術研究・産学官連携推進機構（SUIRLO）に在籍する合計34名のURA・コーディネーター（2023年5月時点）の支援を受けることが可能である。本学におけるURA・コーディネーターは、全てのキャンパスに配置されており、競争的研究費の申請、産学官地域連携、特許出願、研究力分析、研究コンプライアンス等に関する多彩な支援をワンストップで提供できる体制が整えられているため、特別研究員-PD等が行う研究の更なる進展に貢献できる。併せて、SUIRLOが実施する競争的研究費獲得説明会（直近ではJST戦略的創造研究推進事業・AMED革新的先端研究開発支援事業に関する制度説明会を開催）や、個別相談会への参加も可能とする。

二つ目は、本学内で実施する各種講演会・研究交流会・セミナーおよびワークショップ・外部講師等による公開授業等への参加奨励による、特別研究員-PD等の能力開発支援である。各学部あるいは全学レベルで実施されるこれらの講演会等に特別研究員-PDも参加できるよう、オールメールや学内メールマガジン等での情報発信を行う。また、本学が実施する教育プロジェクト等（例：JST次世代研究者挑戦的研究プログラム）において公開実施される論文執筆セミナー、申請書添削セミナー等も参加対象者とする。加えて、本学では学内の研究者やURA等に向けて、Nature Indexに掲載されたホットな学術情報や世界的な研究トレンドに関する情報をメールマガジンで配信している（配信ペースは週1回程度）。特別研究員-PD等も本メールマガジンの配信対象者としているため、特別研究員-PD等が自身の研究のコラボレーターを発見したり、研究の方向性を確立したりといった取り組みに役立てることができる。特別研究員-PD等による論文執筆、学会発表についても、これを奨励する。

三つ目は、研究者として身に着けるべき研究倫理や、研究実施に係る様々なルール等を身に着けるための教育・研修である。本学では既に、研究コンプライアンス教育（事例紹介を主としたメール配信や弁護士等によるオンライン講演会等）、研究インテグリティ教育（本年度後半に予定）など、学内教職員向けに研究倫理教育を開催しており、特別研究員-PD等も受講対象である。また、共通機器の使用方法に関する講習会等、研究推進に必要となる教育・訓練も必要に応じて受講可能である。

これらの他にも、本学において開催される能力開発に資する各種セミナー・講習会等は特別研究員-PD等にも随時案内し、広範な知見を身に着けた研究者を育成していく。

### ③女性研究者に係る育成方針、予定する取組等

本学には「信州大学男女共同参画推進センター」が設置されており、当センターを中心として女性研究者のキャリア形成や研究推進などに対する各種支援制度が実施されている。例えば、妊娠・出産・育児・介護・看護などのライフイベントと研究の両立を支援するため、大学の負担で大学生・大学院生等を雇用して実験や調査、データ分析等の補助者として配置できる「研究補助者制度」がある。また、本学では「信州大学おひさま保育園」が設置されており、育児と研究の両立を支援する環境もすでに整えられており、男女を問わず安心して本学での研究に専念できる。最近においても、本学教職員や長野県内在住の妊婦・パートナーを対象として、妊娠・出産・子育てに関する話題・関心・悩み事などを参加者間で共有できる「子育てお

しゃべり会（参考 URL）」が医学部保健学科助産師の主催で開催されているほか、育児・介護のための休暇制度も利用できるなど、各種ライフイベントに応じた支援制度は万全である。上述した支援制度は特別研究員-PD 等も利用可能であり、受け入れ部局の事務担当者や男女共同参画推進センターのメールマガジン等を通じて各制度を積極的に周知する。

人材育成・研究支援の観点では、上記①②における各種支援施策に加え、女性研究者のキャリア形成支援等を対象とした各種補助金（例：輝く女性研究者賞 等）の公募案内や URA 等による申請支援を実施し、特別研究員-PD 等の採用期間～採用後のキャリア形成に関してもサポートする。